

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390500084		
法人名	株式会社 アリスジャパン		
事業所名	グループホーム菊の里 (アリス館)		
所在地	岡山県笠岡市吉田字山中39番1		
自己評価作成日	平成27年8月7日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

きれいで快適で家庭的な環境のもとで、楽しく、ご自分のペースで、利用者様がその有する能力に応じて、自立した日常生活を営むことを支援するとともに、高齢者の福祉の増進を図っています。年間行事予定をたて、ドライブ等で通常の生活にメリハリがつくように実施し、入居者様に喜んでもらっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3390500084-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成27年8月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設5年目を迎える「菊の里」は、看護師2名の職員配置をして医療連携を図りながら地域のニーズに合わせて、入所から最期まで関わる事をコンセプトに“看取りが出来るホーム”としてこれまで4名の方の看取りを実施してきた。利用者も高齢化や重度化が進み現在100才以上の人が2名いる。この4年間ホームは着実に実績を積み重ねながら地域からも徐々に評価を受けてきた。開設当初からの管理者は介護現場での経験も豊富であり、他職種からの新規採用の職員の指導にも熱心に取り組み、年間研修計画を作成し内部・外部研修を実施して職員のスキルアップを図っている。その一つとして、各ユニット毎に「月間目標」を定め毎月職員間で検証・評価しながら業務改善やサービスの向上、各自の意欲の向上に活かしている。管理者、看護職員、介護職員のチームワークも良く、利用者が安心して過ごせる環境になっている。今後も地域のニーズに応えながら頑張っているホームに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念・基本方針を事務所に掲示し、毎朝の朝礼にて、唱和をしてその理念を共有して実践につなげている。	各ユニット毎に“月間目標”を定め、「遅出勤務の人が体操しよう」等、具体的な目標を掲げ、毎月職員間で検証・反省しながら実施している。毎日の朝の体操が定着化し、全員で取り組んでいる成果があがってきており、職員の意欲向上にも繋がっている。	母体企業の経営理念を掲げ毎日職員間で唱和をして意識の統一を図っているが、大きな理念に加え、もう少し具体的なグループホームとしての理念を設定しても良いのではと思う。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議のメンバーに地域の民生委員さん・代表の方に入って頂き、地域の民生委員さんも定期的にボランティアで訪問いただいている。SOSネットワーク事業への参加。	地域の行事に参加したり、町内の溝掃除・草取り等にも積極的に参加して地域の人と交流を図っている。民生委員や地域の人達が歌や演奏等のボランティアで訪問してくれたり、中学生の夏休みのボランティアも恒例になっている等、地域との繋がりも着実に広がってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度は大きなイベントを開催していないが、今後、笠岡市が推進している地域密着拠点推進会議にて、グループホームが拠点となる様、地域との関係作りを強めていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地域の代表の方・民生委員さんにも参加いただき、入居者情報・活動状況等を報告ご家族の方々意見・希望を聞くようにしている。	年に数回、地域包括職員、民生委員、地区の行政委員、家族等が参加して活動報告、情報交換等、活発な意見交換をしている。参加者から意見・要望があった職員の氏名入り顔写真を玄関に掲示する等、サービスの向上を図っている。	運営推進会議には行政、地域の人、家族等の協力のもと、毎回確実に参加してもらっているため、今後は年6回(隔月)の開催を目標に頑張りたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連携出来ていると思う。わからない事があつたら、すぐに連絡をして、確認をしている。地域拠点推進会議にも参加をし、情報の交換に努めている。	運営推進会議に市の担当者の出席があり、情報交換や相談をして助言や指導してもらっている。「地域ケア会議」や市が主催する研修会に参加し、日頃から行政・近隣のGHと連携を取り合い、良好な協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関も夜間・早朝以外は施錠していない。身体拘束については、やめずその必要性が生じたら、家族に説明をして、期間を定め同意書にて確認の上行う。	安全対策として玄関等のドアの開閉時にセンサーで感知する装置はあるが、日中の施錠はしていない。外に出たい人には職員が付き添い見守りながら支援をしている。「身体拘束・虐待防止」「言葉の虐待」等の研修をして職員間で周知徹底を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年外部からの講師を招き研修を受けている。事業所に置いても毎年研修を行い、声かけの仕方など防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これから勉強していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での家族様の意見・要望はすぐに改善実施している。	クリスマス会等の行事には家族の参加があり家族間の親睦を図り話し合う機会がある。毎月の請求書に状況報告や写真を添付して家族に送付したり、面会時には意見や要望を聞き、運営や業務改善に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回月例会を実施し、月間目標等を掲げ実施している。	年間研修計画に沿って月例会で研修をしたり、毎月の月間目標に対して反省をし、意見交換をして次月の目標を設定している。「レクの充実」「挨拶をする」等の目標に取り組み、「朝の体操」は定着化し効果を挙げている。職員からの相談には管理者がいつでも対応しており、職員の自主性を尊重し実行してもらうようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の更衣室・休憩室が設置され、職員の職場環境には配慮されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	井笠地域の職員を対象にした研修会が三ヶ月に一回位あり、職員の資質向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	笠岡市内の地域密着型の事業所の集まり等で知り合った管理者との交流はある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人様・家族様の面接を行い、要望や困っている事を聞きケアプランに反映して、スタッフの統一を図り、入居者様の信頼を早く得るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人様・家族様の面接を行い、要望や困っている事を聞きケアプランに反映して、スタッフの統一を図り、入居者様の信頼を早く得るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人様・家族様の面接を行い、要望や困っている事を聞きケアプランに反映して、スタッフの統一を図り、入居者様の信頼を早く得るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者さんの変動も少なく、お互いのコミュニケーションも出来たように思う。一緒に歌を歌ったり、塗り絵をしたりして、共に良い関係を築くように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方には、入居者さんの報告を密にして、家族の方をまきこんで一緒に考え、対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	吉川地区の民生委員の方は年に1回は必ず訪問していただいている。	日頃から家族の面会は多く、盆・正月等には孫や親戚等の訪問もある。以前利用していたデイサービスに遊びに行き、利用者や職員達と交流をする等、馴染みの関係も支援している。眼科等の受診時には家族と外食に行く人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションがとりにくい入居者の方でも、職員が間に入り孤立しないよう他者との交流に努めている。席の工夫・机の並び方の工夫等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了された方にも、動向をお聞きして、関係を断ち切らないように、連絡を取るつもりである。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の方に本人の望みや、希望、今までの生活のあり方聴取し、日常の生活に活かすようにしている。	利用者の生活歴を把握し、「どう過ごしたいか」等その人の思いをよく聞きながら意向や希望に添えるように職員は努力している。意思表示が困難な人には、表情やしぐさから読み取り把握するように努めている。	利用者の中期的な生活に対する意向をしっかりと組み立てながら、利用者の身体・精神状態を加味してケアマネジメントに生かせるようなシステムを提案していければ素晴らしいと願う。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人様・家族様の面接を行い、本人を取り巻く家族、利用されていたサービス事業者から情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	貼り絵の好きな人、塗り絵が好きな人、歌の好きな人それぞれの好みによって、強要しないで余暇時間を過ごしてもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族の意向を大切に、計画作成担当者を中心に1回／月ミーティングを持ち介護計画書を作成している。各入居者様の担当を決め担当者を中心にモニタリング、計画作成を行っている。	毎月カンファレンスをして職員間で話し合っている。モニタリングを6か月に1回実施し、プラン更新時や状態の変化があればその都度、本人・家族の意向や要望を聞き、サービス担当者会議をして検討、作成している。介護記録に加え看護記録も綿密に作成しており、ケアプランに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌、経過記録にその日の身体状況、発言などを記録し状況把握が出来る様にしている。変化は申し送りで伝えケアプランの見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	色々制限はあるが、入居者の方の意向に対して出来る限りの対応は心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源をしっかりと把握し、十分に活用出来る様努力する。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関とは密接な関係にあり、何時でも相談に応じてもらえる。急変に対してはすぐに往診して頂き、適切な処置をいただいている。	ほとんどの利用者はホームの協力医がかかりつけ医であり、身体状態等をよく分かっている看護師が受診に付き添い主治医とよく連携をとっている。また受診記録表に記入し職員間で情報共有している。訪問歯科を利用している人もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平成24年8月より、医療連携加算を算定している。日常の情報や気づきを伝え異常の早期発見、安心して生活が送れる様医療機関との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書を作成し、施設での医療や生活、介護状況について情報提供を行っている。退院時は医療機関と連携を図り、退院時カンファレンスへの参加又は状況提供書を頂き安心して退院が行えるよう関係を作っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携加算を算定している。早期より本人、家族の意向を確認し、主治医との連携を図りながら安心して、納得した終末期が迎えられるよう努力している。	開設以来4名の看取りを実施した。職員に看護師2名を配置しており、医療機関と連携を図りながら本人・家族の満足度を大切にしながら支援している。看取りの経験を通して人生の最期に対する職員の意識も変わってきており、地域の中でもホームの取り組みを評価してもらっているようだ。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成し、職員全員が対応できる様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者様も参加した災害訓練を年2回行なっている。	避難訓練マニュアルを基にした研修を始め今年度は救命救急(AED)講習を実施した。事務所に避難手段一覧表「車椅子、歩行器・シルバーカー、自立歩行」を掲示し利用者の状態を把握している。年2回、避難経路を確認しながら利用者と一緒に避難訓練をしている。	夜間や地震等、災害時の協力体制を日頃から運営推進会議等で話し合ってみてはどうか。例えば、消防署や地域の人が参加する合同訓練をしてホームの実情を把握してもらおうのも良いと思う。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ使用時にはドアを閉める。入室時はノックを行い、声かけもプライドを傷つけない言葉を使う等配慮している。	言葉のかけ方には特に気をつけており、職員は接遇研修をして個人の人格を尊重するようにしている。トイレ介助・入浴介助時には羞恥心に配慮して同性介助をする事もある。トイレ・浴室には事務所に通じる呼び出し装置があり、利用者からの呼応に職員がその都度対応・支援していた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを伝える事が出来ない方もいらっしゃる為、こちらからの声かけや話しやすい環境作りに気をつけている。また、急がせたりせず利用者様のペースに合わせるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴などその方の体調に合わせ、時間にとらわれず、各利用者様に合わせ支援を行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用し希望者によっては毛染めなども行っている。日々の洋服選びも利用者様と相談しながら行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な皮むきや下準備、食後のお膳拭き等を一緒に会話しながら行っている。食器の種類や盛り付け、並べ方なども美しく行えるよう、話し合いを行っている。	食事は3食共職員が手作りしている。一人ひとりの食事形態に合わせミキサー食で食事介助の人もいるが、大半の人は自力で食事摂取できている。イベントや誕生日の時はバーベキューやにぎり寿司、赤飯等の特別メニューが楽しめる。利用者と一緒に手作りの巻き寿司をしたりおやつ作りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士のアドバイスを受け、栄養バランスを考えた食事作りをしている。水分摂取量のチェックを行い、管理を行っている。形態もミキサー食、キザミ食、トロミをつけるなど、個々に合わせた物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを行い就寝前には義歯ははずしてもらい洗浄液につけて衛生管理を行っている状況に応じて訪問歯科診療依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをチェックし、日中はトイレを使用している。夜間は身体機能に合わせて、トイレやおシメで対応するケースもある。	排泄チェック表で一人ひとりの排泄リズムを把握しながら、適宜声かけ、誘導をしている。自立している人は3名、その他の人はリハビリパンツやパットを使用しているが、色々な製品を試したり、パットの当て方等職員間でその人に合わせた種類や製品の検討をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、一人ひとりの状況を把握している。便秘の方には水分補給時牛乳やきな粉、繊維を含んだ飲料など工夫をしている。看護から医師に指示をもらい内服や処置の対応を行なうケースもある		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には2回/週の入浴を心掛けているがその日の状況により入浴を勧めている。便失禁等があればシャワー浴を行っている。	各ユニットに一般浴槽があり浴槽を跨げない人や重度化が進んだ人は二人介助をしている。隣接するデイサービスに特殊浴槽があり必要に応じて利用できるが現在は特浴を利用している人はいない。入浴拒否がある人には声掛けの工夫やタイミングを見計らいながら支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの体調に合わせて横になってもらっている。午後には昼寝を声かけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は1日分を個別に分けてケース保管をしている。毎食後個々に手渡しし、飲まれたまですを確認している。内服の変更は、看護師より報告があり文章で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ、食事用のお膳拭き、貼り絵などそれぞれの好みで実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は極力外に出るようにしている。月間行事としてドライブ等の計画・実施をしている。	花見、紅葉見学、遠足等ドライブや外食を兼ねて外出支援をしている。家族と一緒に受診に行く時、外食をして帰る利用者もいる。スーパーへの買い物や近くに移動パン屋さんが来ると希望者と買いに行く等、職員はそれぞれ個別支援もしている。	イベント等で活用はしているが、ホームの裏の敷地や駐車場スペースを今以上に有効活用できる様に職員間で話し合ってみて欲しい。外気浴や日光浴は気分転換になり、ホーム周辺の散歩も効果的と思う。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則金銭は預かっています。買い物希望者にはお出しし、一緒に買い物を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方にはかけて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	秋の季節には毎年地域の方が菊の大輪を持って来てくださる。毎月ホールの壁に季節にあった飾りや利用者様の作品を飾っている。	リビングは天井が高く陽光も明るい。壁には花火や朝顔等の塗り絵や折り紙等の利用者の作品が展示され季節感が溢れている。リビングの一角にはベッドが置かれ高齢の為横になる事の多い人が寂しくない様にとの配慮もしてある。温度調節には特に気を配り快適に過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本ホールでの席は気の合う方との並びにしている。テレビが見たい方は見えやすい席にしたり配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や本人の気に入っている物を持ち込み、なじみのある空間をそれぞれ作られている。	ベッド、タンス、サイドテーブルは備え付けであるが、毎年作成する絵馬に願い事を書いた物や家族の写真、手作り作品等を展示して本人や家族が自由にレイアウトし個性的な居室になっている。テレビを持ち込み楽しんでいる人もいる等、落ち着いた環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋がわからない方もいらっしゃるののでドアに名前を大きく書いて貼っている。またトイレも「便所」記載している場所もある。		